

庁舎のご案内

新しい発見

～研究成果の公開展示に努めています～

「あれ?研究所が変わったね。」久しぶりにお越しになられた方は、口をそろえてそう言われます。環境保全研究所の飯綱庁舎では、研究成果を県民の皆さまに還元したいという思いから、この1年、研究成果等の公開展示の充実に努めてきました。その結果、2階のエントランスホールや廊下の壁などを中心に約50テーマの展示物をご覧いただけるようになりました。

たとえば、研究所がおこなってきた研究プロジェクトの成果や、県内の希少野生動植物の生息状況について調べた「長野県版レッドデータブック」などのコーナーが見ごたえのあるところです。また、パソコンのモニター画面でご覧いただける自動スライドショーも好評です。子どもたちには、「山のうえのミニ水族館」に加え、自然観察路に設けたエコクイズラリーが好評です。さらにこの9月から、庁舎の床に「足あとクイズ」が加わりました。

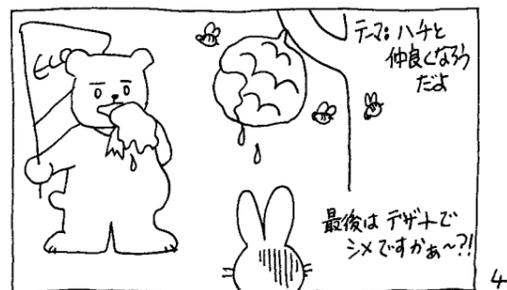
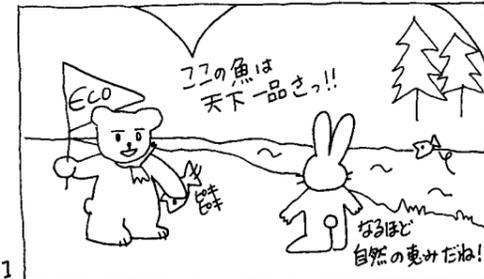
9月30日現在、4月からの来館者数が3,800人を超え、おかげさまで昨年一年間の来館者数を半年で上回りました。これも、展示の効果かもしれません。とはいえ、手づくりの展示が主で、改善すべき点も山積みです。今後も工夫を続け、より多くの方に、自然を学びながら楽しいひと時を過ごしていただけるようにしたいと考えております。

開館時間は平日の9時～17時ですが、団体の皆さまには、予めご相談いただければ、土・日のご利用も可能です。なお、今年の夏休み期間中は、土日とも休まず開館しました。(中村)



よもくまの エコツアーリズム!!

作・よもよも



編集後記

「みどりのこえ」は、これからの自然保護をすすめるための情報交流の場です。

特集記事いかがでしたか。今号では、県内で精力的にエコツアーリズムの企画に取り組む方々から、日々の活動の紹介をしていただくことができました。ありがとうございました。ご紹介したほかに、長野県には、ほんの一步を踏み出せば、独自のエコツアーリズムが始まりそうな場所がたくさんあります。新しい旅のかたちを、一緒に探してみたいかがでしょうか。ご意見、ご感想等がありましたら、お寄せください。(編集担当:自然環境チーム 富樫 kanken-shizen@pref.nagano.jp)



この印刷物は、大豆インクおよび古紙配合率100%再生紙を使用しています。

みどりのこえ

秋号
2005

No.31

長野県環境保全研究所

平成17年(2005年)10月12日発行

飯綱庁舎 〒381-0075長野市北郷2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

安茂里庁舎 〒380-0944長野市安茂里米村1978 TEL.026-227-0345 FAX.026-224-3415

URL: <http://www.pref.nagano.jp/xseikan/khozen/index.html> Email: kanken-shizen@pref.nagano.jp



農業用水路を使ったミニ水力発電の公開実験(国土交通省の水利用許可取得済)

環境をいかした市民からの仕事おこし

文・写真 傘木 宏夫(NPO地域づくり工房 代表理事)

NPO地域づくり工房(任意団体、会員118名)は、「環境・福祉・学びあいの仕事おこし」をテーマに、2002年10月に発足し、大町市を拠点に、くるくるエコプロジェクト(小規模水力発電の普及をめざす)と菜の花エコプロジェクト(菜種油・廃食油・バイオ軽油の循環をめざす)とを両輪にして、活動を展開しています。

これらは、会発足から半年間の「仕事おこしワークショップ」(全6回)により得られたものです。それは、「地域でいかされていないもの」を探ることから始めて、それらを活かして「小金がまわる」市民事業の企画をつくりあげる共同作業です。最初の段階ではたくさんのアイデアが出てきました。しかし、それらを具体化する第一歩はなかなか出てくるものではありません。2つのプロジェクトは、2003年春より、市民実験という形で着手して3年目を迎え、今年度は市民事業へと発展させることを目標としています。幸い全国各地からの視察が相次いでいるこ

とから、エコツアーとしての商品化も進行中です。

地域にはさまざまな資源がありながら、利益優先の市場システムや諸規制、既得権や慣習などが障害となって生かされていません。しかし、本当に必要なことは、障壁を乗り越える主体的な力量だと痛感しています。それは、地域の自然や風土を読み取り、人の力と結びつけて、地域づくり活動へと構築する力量です。

「観光」の語源は「国の光を観る」という中国の故事に由来し、各地の人びとの生きざまが輝いている様子を見て、旅する人が励まされたり、癒されたりすることが、観光の本質だと教えています。私たちの取り組みが、地域の元気を発信することに寄与できれば幸いです。

本会が事務局を担う「大町のエコツアー受入れ連絡会」ではさまざまな見学&体験プログラムを提供しています。ぜひお越しください。URL: <http://npo.omachi.org/>

Contents

【巻頭言】環境をいかした市民からの仕事おこし	1	エコツアーリズムへの予感-「里山歩き」と栗ごはん	8
【特集】エコツアーリズムって何だろう?	2	【こんなことやってるよ!】活動紹介「松本自然観察会」	10
【特集】取り組み紹介1 信越トレイルクラブ	4	【読書案内】スロー・快樂主義宣言	10
取り組み紹介2 ピッキオ	5	【フィールドノートから】佐久地域に広がる外来種アメリカミンク	11
取り組み紹介3 ふるさと南信州緑の基金	6	庁舎案内と「よもくまくん」	12
事例紹介 コスタリカ	7		

エコツーリズムって何だろう？

近年、エコツーリズムという言葉をあちこちで耳にするようになりました。でも「エコツーリズムって何なのか」、「他の旅行とどこがちがうのか」をきちんと知る機会はそのなにも多くはありません。エコツーリズムという新しい旅のかたちが、もっと身近なものになることを願って、今回特集を組んでみました。体験したことのある人、これから体験してみたい人、あるいは企画をしたいというたくさんの方に、参考にさせていただきたいと思います。(編集部)

エコツーリズムという言葉の意味は？

国際エコツーリズム協会によると、エコツーリズムとは、「環境保全と地域住民の生活向上に貢献する自然地域への責任ある旅行のこと」とされています。

ここで、注目されるのが、環境保全、地域住民、責任という部分です。海や山などでの娯楽や物見遊山、あるいは団体のバック旅行などのようなこれまでの観光では、大勢の様々な人たちが特定の場所に押しかけることにより、地域の生活環境や自然環境が悪化してしまう事例が多くみられました。エコツーリズムは、そのようなことがない、もうひとつの旅のかたちとして、新しい発想と需要の下に生まれてきたものです。とくに社会教育的な側面をもち、倫理的な立場を備えることが特徴です。

似ている言葉をくらべてみると

【グリーン・ツーリズム】

1980年代以降に、主にヨーロッパで普及してきたツーリズム形態(ルーラル・ツーリズムやアグリ・ツーリズムという類似の言葉もある)。都市住民の田園回帰への思いと農村環境の保全や農村活性化政策の展開の中から生まれた。それを参考に、日本では1992年に農林水産省が農村振興や地域活性化をはかる新政策として導入。その内容は都市住民向けの農村体験や住民間の交流活動が中心。行政主導型と民間主導型の活動に分かれ、内容的にエコツーリズムと重なる部分も多い。

【ネイチャー・ツーリズム】

自然観察や自然体験を主とした観光旅行。冒険旅行なども含まれる。対象地域が重なるため、しばしばエコツーリズムと混同される場合がある。しかし、旅行の形態、規模、内容はさまざまで、活動が地域や自然に与える影響についての責任ある規定がなければ、エコツーリズムとはいえない。



【ヘリテージ・ツーリズム】

自然遺産や文化遺産を訪ねる観光旅行。観光対象は、主に寺院や町並み、自然景観などであり、対象としてエコツーリズムとも重なる場合がある。ただし、対象地域の類似だけではエコツーリズムとならないのはネイチャー・ツーリズムと同様。



【エコミュージアム(エコミュゼ)】

1970年代にフランスで誕生した新しい博物館の考え方や、その博物館のこと。日本では故新井重三氏により「生活・環境博物館」と訳されている。地域住民や来訪者が、地域の生活や、自然、文化を遺産として学びながら、それらを現地において保護・保全していく仕掛けとなる。必ずしも特別な展示施設が必要なわけではなく、地域や暮らしや人の記憶そのものが、まるごと博物館や展示品とみなされる。地域の遺産をよく知る案内者(インタープリター)とともに、エコミュージアムを訪ねる旅は、エコツーリズムに限りなく近いものになりうる。

～エコツーリズムの歴史～

- 1980年代 エコツーリズムという言葉がはじめて使われ、徐々にその考え方が形成されるとともに、世界中に活動が伝播。
- 1990年 アメリカに世界で初めてエコツーリズム協会(現在の国際エコツーリズム協会)が設立される。
- 1992年 IUCN(国際自然保護連合)、UNEP(国連環境計画)、WTO(世界観光機構)が「国立公園と保護地域における観光推進ガイドライン」をまとめる。
- 1993年 第1回東アジア国立公園保護地域会議でエコツーリズムの定義が出される。
- 1994年 NACS-J(日本自然保護協会)により「エコツーリズム・ガイドライン」が発行される。
- 1996年 日本に西表島エコツーリズム協会ができる(国内第1号)。
- 1996年 初めてのエコツーリズム認証制度NEAPができる(オーストラリア)。
- 1998年 エコツーリズム推進協議会(現在の日本エコツーリズム協会)設立。
- 2002年 国際エコツーリズム年

このように、エコツーリズムには、そんなに古い歴史があるわけではありません。エコツーリズムが生まれてきた背景には、「環境への配慮に欠けた観光がもたらす、さまざまな問題」、「1980年代以降に提唱された『持続可能な開発(発展)』という考え方」、「都市住民の心のなかでの田園生活や自然にふれたい気持ちの高まり」、「発展途上国での経済的な自立と環境保全の両立のための仕組みづくり」、あるいは「1992年の地球サミットなどを通しての国際的な環境保全意識の高まり」などいくつもの要因が重なっています。今では、世界中にエコツーリズムの考えと活動が広がり、地域の活性化と地域経済への貢献をはかる新しい仕掛けとしての期待が高まっています。

◎◎◎ 私たちが考えるエコツーリズムの4箇条

1つ すぐれたガイドの存在

来訪者と地域を結ぶのが、ガイドあるいはインタープリターとも呼ばれる案内者の存在です。ガイドは、エコツーリズムの意義や魅力を理解し、地域の自然や文化的な遺産の価値をよく知り、それらを来訪者に上手に伝えてくれる知識と技術をもつ専門家です。そして常に、遺産を守るための気くばりを忘れない人材です。

2つ エコツーリズムは急がない

限られた日程で、あれもこれもと忙しく見てまわるのはエコツーリズムとはいえません。その理由は、価値を味わえない、学べない、触れ合えないから。もちろん環境への配慮もおろそかになってしまいがちです。エコツーリズムは、スロー・ライフ(ゆったりとした文化と、生き方)に通じる旅なのです。

3つ エコツーリズムは小規模・少数活動が原則

エコツーリズムの人气が高まって、大にぎわいになったときにどうするか。これは大きな問題です。通常のビジネスの世界では、お客は多くなるほど事業が成功したことになりますが、エコツーリズムでは必ずしもそうとはいえません。環境への配慮と責任を保つためには、利用の限度をあらかじめ考えておくことが大切です。その配慮が欠けると、エコツーリズムそのものが成立しなくなってしまいます。

4つ ツーリスト自身の意識が鍵

エコツーリズムがうまくいくためには、旅人(ツーリスト)自身の意識がとても重要になります。まず、はっきりした旅の目的があること。そのうえでエコツーリズムという旅を選択していることが大事です。目的があるから、ガイドや地域との交流が深まるし、旅先で過度の快適さを要求することはありません。そしてその旅が、自分だけでなく、地域の自然や住民にどんな貢献をすることになるのかについても、思いやることができます。本当のエコツーリズムは、そんな旅人とガイドと地域と一緒に、はじめて可能になるものといえます。

情報コーナー

- 参考書「エコツーリズム教本」スー・ビートン著 小林英俊訳 平凡社(2002)
- 「エコツーリズムって何?」小林寛子著 河出書房新社(2002)
- 「NACS-J エコツーリズム・ガイドライン」(財)日本自然保護協会(1994)
- 「グリーン・ツーリズム実践の社会学」青木辰司著 丸善株式会社(2004)など
- エコツーリズムに関連するウェブサイト
 - ・日本エコツーリズム協会 <http://www.ecotourism.gr.jp/>
 - ・環境省の取り組み <http://www.env.go.jp/nature/ecotourism/index.html>
(環境省監修のエコツーリズム推進マニュアルがあります)
 - ・国際エコツーリズム協会(アメリカ) <http://www.ecotourism.org/>

- エコツーリズム先進地
世界：オーストラリア、ニュージーランド、コスタリカ、アラスカ、カナダ、エクアドル(ガラパゴス諸島)、ケニア、タンザニアなど
- 国内：西表島、屋久島、小笠原、北海道など

取り組み紹介 1

自ら誇れる地域を目指して ~ 信越トレイルクラブの取り組み ~

信越トレイルクラブ事務局 高野 賢一

長野・新潟県境に、標高1000m程の山が続く関田(せきだ)山脈があります。ここには14もの峠道があったことが確認され、かつて、隣接する信越地域では国境をこえた交流が盛んに行われていました。峠道は物流の要所として多くの人々が行き交い、峠付近では両地域合同の催し物等が行われていたそうです。

ところで、皆さんは「信越トレイル」をご存知ですか。

平成12年より、この山脈に長距離トレッキングルートを設置することによる2県13市町村の地域連携、活性化に関する調査、検討が行われてきました。その結果、このトレッキングルート(=信越トレイル)づくりが具体化することになり、平成16年、「信越トレイル」の整備・維持管理と持続的な活動を推進するための組織として、「NPO法人信越トレイルクラブ」が誕生しました。信越トレイルクラブでは、歴史ある旧道・古道を両県市町村が一体となって復元・整備すること。トレイルの利活用を通して人と自然が共存する里山の機能を理解すること。健康や環境問題への意識の向上を図ること。信越地域の活性化に貢献することを目的として活動しています。

トレイルの整備やトレッキングツアーの実施にあたり私たちは自然環境の保全と適正な利用に配慮しています。トレイルは既存の道を最大限活用しているため、途中、農道や林道を歩くこともありますし、新たに復元する旧道であっても木こり道ほどの素朴なものにしています。また、整備と同じく重要な活動として、入込み状況や自然環境の現状調査を続けています。これは、過度の利用による環境への負荷を考慮し、必要に応じて利用方法の見直しやルートの変更を行うための情報収集と位置づけていて、



環境調査のひとつ

一般利用開始前後の比較調査(モニタリング)を継続しています。このような活動も、専門家の助言を得ながらボランティアの手で行うことで様々な視点で関田山脈の自然を感じ、多くの方に地域への愛着を持っていただくと考えています。

今年7月、5年の歳月を経て信越トレイルの一部区間約50kmが運用開始しました。現在は、斑尾山頂から飯山市と新潟県上越市の境界にある牧峠までが利用可能ですが、近い将来さらに30kmが伸び、メインルートとなる尾根道だけでも80kmもの距離になります。

この道は単にトレッキングだけを目的としたものではなく、いくつもの地域を繋ぎ合わせる役割を持っています。かつての生活圏は県や市町村の境界線とは関係がなく、協力し合い生活を成り立たせていたそうです。動植物の生活域も同様です。関田山脈をひとつの生態系として捉え、ここに関わっている自治体すべてが、共通の財産を協力しあって守り利用していく。この活動がうまくいけば、関田山脈という自然や文化を今よりもっと大きな視点から見ることで付加価値がつかはずです。そうして、やがては自分たちの利益にも繋がる。私たちは、そのような観点からも信越トレイルを考えています。



ある日のトレイル整備の参加者

<連絡先>
NPO法人 信越トレイルクラブ事務局
〒389-2601 長野県飯山市なべくら高原柄山
なべくら高原・森の家内
TEL 0269-69-2888
URL <http://www.iiyama-catv.ne.jp/s-trail/>

取り組み紹介 2

自然環境の保全と利用の相互促進をめざして

ピッキオ 南 正人

エコツーリズムは、地域資源の利用と保全を互いに促進する観光です。ピッキオは、野生動植物を資源としてプログラムに活用するだけでなく、財産として保全する仕組みを作り実践したいと考えています。環境省の第1回エコツーリズム大賞を戴くことができたのは、自然の利用と保全活動のバランスが評価されたと思っています。



クマに発信器を付ける

ピッキオは、軽井沢を中心に、野生動植物の保護・調査活動(保全)と、自然体験活動(利用)の二つの活動を行っています。前者では、軽井沢町からの委託で、ツキノワグマをできるだけ殺さずに被害も減少させる活動が中心です。人家周辺に出てくるクマに発信器を付けて行動を監視し、人家に近づいた時には特殊犬「ベアドッグ」を使って追い払いを試みたり、畑に電気柵を張ったり、夏場は24時間体制の活動です。手を尽くしても人身事故が想定される場合には、役場の判断でやむなく駆除もします。

また、野鳥や小動物・タヌキ・キツネの生息に影響を与え、人にも感染する病気を持つ外来種アライグマを生態系から排除するために捕獲を行っています。アライグマはこのままでは東信全域へ広がる危険性があり、緊急の課題です。軽井沢野鳥の森では、鳥類相や昆虫相の調査を継続し、森林整備を行っています。保全活動は、ピッキオの活動の場である浅間高原にクマを含む豊かな森や草原を残すための活動です。

自然体験活動としては、毎朝野鳥の森を案内するネイチャーウォッチング、春には早朝バードウォッチング、夏に

はナイトハイク、浅間山へ草花やカモシカを見に行くツアー、クマやカモシカの調査活動を体験し生き物の生活に迫るプログラム、学校団体の自然体験活動など、年間を通してプログラムを提供しています。野鳥の森に隣接するビジターセンターでは、森の情報を展示し、最新の情報を提供しています。これらのプログラムや展示にはピッキオが自ら調査したこの森での動植物の生活が取りあげられています。

自然を残してゆくためには、自然のことが大好きな人を増やすと同時に、自然のメカニズムを理解する科学的な視点を持った人を増やすことが重要だと考えています。生き物の生活を具体的に知れば知るほど、生命の素晴らしさ、かけがえのなさが、心の中に生まれてくると信じています。

最近では、エコツーリズムや野生動物保護と被害対策について、自治体や大学の研修・インターン受入なども行っています。それぞれの地域での自然と人の生活の調和を今後も様々な人と一緒に考えてゆきたいと思っています。



ネイチャーウォッチング

<連絡先>
株式会社 ピッキオ
〒389-0194 長野県北佐久郡軽井沢町長倉2148
軽井沢野鳥の森ピッキオビジターセンター内
TEL. 0267-45-7777
URL:<http://picchio.co.jp/>

